

# 文教福祉常任委員会記録

平成 31 年 3 月 18 日(月)午後 2 時 17 分～午後 2 時 26 分(9 階 909 会議室)

## ○出席委員(7名)

委員長	丹治 誠	副委員長	二階堂武文
委員	小熊 省三	委員	根本 雅昭
委員	梅津 政則	委員	尾形 武
委員	真田 広志		

## ○欠席委員(2名)

委員	沢井 和宏	委員	高木 克尚
----	-------	----	-------

## ○市長等部局出席者(なし)

## ○案 件

所管事務調査 「小学校における ICT を活用した学習活動の充実に関する調査」

- (1) 委員長報告について
- (2) その他

---

午後 2 時 17 分 開 議

(丹治 誠委員長) 文教福祉常任委員会を開きます。

本日、高木委員、沢井委員より欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

本日の議題はお手元の次第のとおりで、委員長報告についてを議題といたします。

昨年の 11 月に当局説明の際にご説明がありましたふくしま ICT 教育フューチャービジョンなどに基づいて、小学校における ICT 機器の整備計画及び教員の研修計画等につきまして、本日の予算議案の審査を踏まえて、次年度以降の計画内容に対する今のやりとりの中で皆さんから何かご意見があればお聞きして、それを今後まとめ上げる委員長報告の中に入れていこうというふうに思っておりました。

何かご意見ありますか。私が聞いた範囲の中では、教員の研修するにあたって、業者の年々に 5 回ほど来て、本来ならば委託してずっといるような人に研修支援員という立場でやってもらいたいんだけど、予算取りできなかったみたいな、そんな話があって、そういったところをしっかりとやってもらいたいななんていうふうには私は思ったわけですが、何か、あれだけの話の中では何かととっても難しいですか。

【「委員長がおっしゃられたとおり」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) 難しいよね。

(梅津政則委員) 感想といいますか、今のまま進めていくと、ただ入れて、宝の持ち腐れになって、先生たちは負担がふえたというような認識のもとで、今まで入っていたようなシステムと余り変わらないような結果になってしまうのではないかなという、意識レベルをどこまで持っているかわかりませんが、教育委員会のほうで。話を聞いている限りではそこら辺を危惧するわけです。視察のときとかに例えば現場の先生の熱い思いとか、自治体独自の背景をもとにいろいろな特色とか、実際にやっていくビジョンとか熱意というものを少しかき立ててあげないといけないのではないかと感じておりました。

(丹治 誠委員長) 私もそう思います。さっきの話だと、言われたから、やりますみたいな感じのところか。

(梅津政則委員) 熱い思いを感じないですもの。ただこれで何校に何台、これぐらいの学年に入れてみたいな。

(丹治 誠委員長) こういうことをやっていきますよとかちょっとなかった。

(梅津政則委員) 特にソフト面が全然欠落しているように感じられてなりません。

(丹治 誠委員長) しかも、2020年って目前に控えている中で、このペースでいいのかなというふうな思いは私もしました。

(尾形 武委員) このフューチャービジョン見ていますと、2018から2022年まで常駐のICT支援員を配置しということで、1名をここで配置すると、あと2023年から2024年に10校に1人と、あと2025年以降は4校に1人配置というようなフューチャービジョンがあるのですが、これはもっと前倒ししないと、先生これの負担がかかって対応し切れなくなるのではないかという危惧はされるわけなのです。パソコンやら機器は第1期でいろいろ配置されるわけなのですから。

(丹治 誠委員長) 負担ももちろんふえるし、ほかの先進のところ見てきて、このままだとああいうところと大分差も開いてしまう、ますますおくれしてしまうなという感じはしますよね。

(梅津政則委員) プログラミングの何たるかというのを全然認識していないと思います。ちょっと言い過ぎかもしれないけれども、今のままでは、ただの電子教材みたいな、そういうような扱いというか、使われ方しからないのではないかなと思ってしまったりして。

(真田広志委員) 少なくともフューチャービジョン自体が先進地からおくれをとっているにもかかわらず、実際の子算組みなんか見るとさらにそこよりも後退しているような感じがしますよね。その辺を含めてしっかり委員長報告の中に盛り込んでいって、提言していく必要性はあるでしょうね。

(根本雅昭委員) 先ほどICTの指導員とか、あと東京の会社から人を呼んで講師をしてもらうとか、いろいろ話がありましたけれども、東京の会社のそういう人材といってもいろいろな分野があるので、システムエンジニアとか、プログラマーとか、あとインフラ整備する専門家とか、整備したイン

フラを安定的にサービス活用するサービスマネジャーとか、あとプロジェクトのマネジャーとか、あとITのコンサル系とか、監査する人ですか、あとセキュリティーとか、挙げれば切りがないほど。それぞれの分野で国家試験なんかもあって、1つ取るのでも結構大変なのです。なので、どういう人が来るかによって全然方向性が変わってくるなというのが印象で、市が何を求めて呼ぶのかというのがちょっと見えないなというのが感じたことです。たまたま来た専門家の人も自分の得意分野を教えるでしょうから、例えばインフラ整備したところにインフラ整備している人が来ても余りいい話聞けないかなという。なので、何を目的にというのをもう少し明確にしていってほしいかなというふうには、今までの話の流れですけれども、思いました。

(丹治 誠委員長) 何のためにやっているのか、何を指すのかって大事で、そういうのもないときっと熱意も出てこないのではないかなという。もともとの計画もおくれぎみな計画をつくっている、その上にまたおくれるのではないかなというところもあたりするので、しっかりお尻をたたくではないけれども、そういったところの内容も必要なかななんて。そんなところですか。

それでは、ありがとうございました。今後委員長報告にまとめて、今いただいたご意見を整理させていただきたいなと思っております。

以上で委員長報告についてを終了いたします。

その他、皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(丹治 誠委員長) それでは、次回の所管事務調査に係る委員会ですけれども、それは4月9日午前10時からとなりますので、よろしくをお願いします。

以上で文教福祉常任委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

午後2時26分 散 会

文教福祉常任委員長 丹 治 誠